

周波数設定ボード F I X - P C L 1 3 0

1. 概要

F I X - P C L 1 3 0はプログラマブル DDS オシレータ、P C L 1 3 0の周波数の設定を容易にする治具です。ボード上の9個のBCDスイッチで任意の周波数の設定ができるほかメモリーチャンネルの書き込み、読み出しが行なえます。またRS-232Cのインターフェースを備えているのでパソコンのシリアルポートに接続して設定を行なうことも可能です。

2. 仕様

電源電圧 3.3V ± 5%

消費電流 750mA 以下

(P C L 1 3 0を実装した時の状態にて)

出力コネクタ SMBタイプ

適合コネクタはSMB (C05)型プラグまたは
ヒロセ電機UMプラグが使用できます。

**注意: P C L 1 3 0の出力レベルはCMSOレベルですの
で50Ω負荷を直接ドライブすることはできません。**

D-SUB9ピン メス

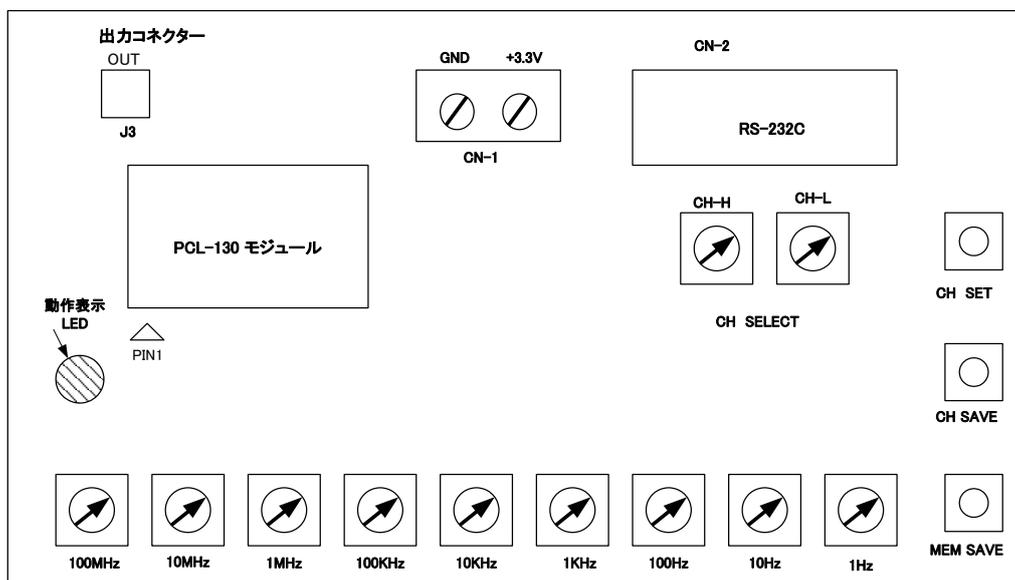
PCのシリアルポートとの接続にはストレートケーブル
を使用します。レベルはRS-232Cです。

通信条件はP C L 1 3 0の仕様書を参照してください。

RS-232Cコネクタピン配置

ピン番号	信号名	信号方向	備考
PCL-130<-> terminal			
1	CD	→	connected to DTR internally
6	DSR	→	connected to DTR internally
2	RD	→	
7	RTS	←	not used
3	TD	←	
8	CTS	→	connected to DTR internally
4	DTR	←	“ CD,CTS,DSR “
9	RI	→	not used
5	GND	←→	

3. ボードの配置



4. 使用方法

(1) BCD SWでの周波数の設定

PCB上にある9個のBCDスイッチで希望する周波数を設定します。

MEM SAVEスイッチを押せばPCL130に現在の周波数を記憶させることができます。PCL130を単体で使用する場合に電源投入時に出力される周波数を記憶させることができます。CH SAVEスイッチはPCL130のメモリー(120CH)に周波数を記憶する場合に使用します。メモリーCHは16進2桁のBCDスイッチ(CH SELECT)で00hex~77hex(10進で0~119)までの範囲で選択してください。CH SETスイッチはPCL130に記憶された周波数を呼び出し設定する時に使用します。

(2) シリアルデータでの設定

このボード内にはRS-232Cのインターフェースが内蔵されていますのでPCの通信ポートとCN2をストレートケーブルで接続してシリアルデータで設定することが可能です。

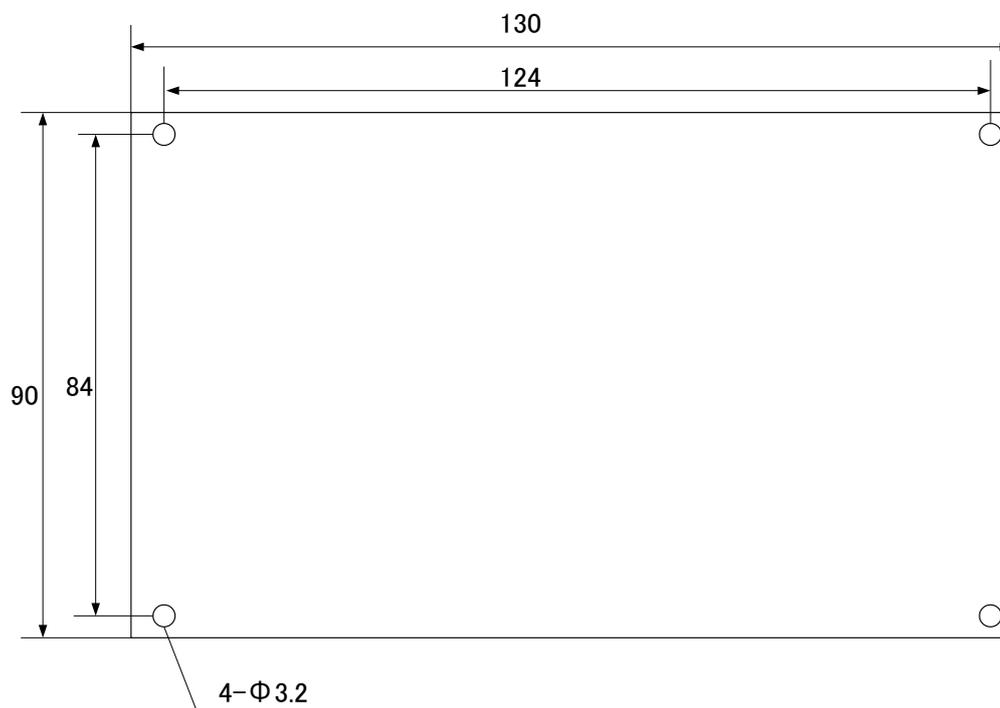
シリアル通信での周波数設定方法はPCL130の仕様書を参照して下さい。

(3) LEDの表示

LEDは正常動作の時は点灯しています。

BCDスイッチで周波数を設定した場合とMEM SAVE/CH SAVEスイッチを押した場合は一瞬だけ点滅します。PCL130が正しくソケットに挿入されていない場合や通信が正常に行なわれない場合はLEDは連続して点滅します。

5. 外形寸法図



設計、製造、販売

株式会社 ディエステクノロジー

〒351-0036 埼玉県朝霞市北原 2-9-10

TEL : 048-470-7030 / FAX : 048-470-7022

URL: <http://www.dst.co.jp/>